

流通とSC・私の視点

2015年7月10日

視点(1951)

経済の発展度合とタイプと消費のレベル!!

(流通経済編)

経済の発展レベルと消費のレベル(プレモダン消費、モダン消費、ポストモダン消費、ニューモダン消費)は大いに関係があります。

経済の発展レベルは次のようにタイプ分類ができます(六車流:流通・マーケティング理論)。

経済のレベル		消費のレベル	事例の国
先進国	先進成熟国	ニューモダン消費経済	アメリカ①(白人中心の少子高齢化社会)、日本
	先進飽和国	ポストモダン消費経済	韓国、イタリア、フランス、シンガポール、イギリス、ドイツ、カナダ
	先進福祉国		北欧諸国(フィンランド、ノルウェー、デンマーク、スウェーデン)
	先進安定成長国	アメリカ②(非白人中心の多子低所得社会)、台湾、香港	
中進国	新興国	モダン消費経済	中国、ロシア、インド、ブラジル、南アフリカ、トルコ、メキシコ、オーストラリア
後進国	発展途上国	プレモダン消費経済	タイ、フィリピン、インドネシア、アイスランド、アイルランド、東欧諸国、エジプト、マレーシア
	未開発国		北朝鮮、モンゴル、バングラディッシュ、ラオス、アフリカ諸国

基本的に先進国は「モノ離れした後の経済」で、現在ニューモダン消費の国は「日本」と「アメリカ」の2国です。これはアメリカ型の消費を基軸とするライフスタイルの最先端がアメリカであり、アメリカに追従して消費を基軸とするライフスタイルを展開しているのが日本です。そして、アメリカは1970年にモノ離れ現象が起こり、その後は2000年までポストモダン消費経済となり、2001年からニューモダン消費経済になっています。一方、日本は1988年にモノ離れ現象が起こり、1991年からポストモダン消費経済、2011年からニューモダン消費経済に突入しています。アメリカはニューモダン消費経済となって15年、日本はまだ5年程度です。ニューモダン消費の進化度には大きな差があります。

アメリカの消費は、2001年からニューモダン消費経済となっていますが、実はアメリカの消費は「ニューモダン消費」である成熟経済の消費と、これから豊になろうとするモダン消費(モノを買い、モノを消費し、モノを所有し、モノを使用することの連続性に喜びを感じる生活向上型の消費)との融合消費経済です。アメリカには移民や低所得者が多く、これから豊になる消費者が50%を占めており、まさにニューモダン消費とモダン消費の融合マーケットです。

<日本の消費経済の歴史のプロセス>

経済のレベル		内 容	
後進国	未開発国	1878年頃以前(明治10年以前・西南の役以前)	プレモダン消費経済
	発展途上国	1879年頃～1900年頃(日露戦争まで)(22年間)	
中進国	新興国	1901年頃～1970年頃(70年間)→統計上は1972年まで	モダン消費経済
先進国	先進安定成長国	1971年頃～1990年頃(20年間)→統計上は1973年から	
	先進飽和国	1991年頃～2010年(20年間)	ポストモダン消費経済
	先進成熟国	2011年以降	ニューモダン消費経済

<参考:アメリカの消費経済の歴史>

経済のレベル		内 容	
後進国	未開発国	1676年以前(独立以前)	プレモダン消費経済
	発展途上国	1677年～1865年(南北戦争まで)(189年間)	
中進国	新興国	1866年～1910年(第1次世界大戦まで)(45年間)	モダン消費経済
先進国	先進安定成長国	1911年～1975年(65年間)	
	先進飽和国	1976年～2000年(25年間)	ポストモダン消費経済
	先進成熟国	2001年以降(1991年から萌芽)	ニューモダン消費経済

日本は、戦前はヨーロッパ志向とアメリカ志向の外国志向と日本志向の混合型のライフスタイルでしたが、戦後はアメリカ型のライフスタイルの「クローンライフスタイル」(全く同じライフスタイル)で、その結果、消費を基軸とする経済(アメリカはGDPの70%、日本はGDPの60%が消費、参考までにドイツは45%、中国は35%)となりました。

それゆえに、政治のみならず経済・流通・SCもアメリカ追従であり、日米の差である「経済時差」が中心となるため、日本にとってアメリカは先進流通モデルとして研究に値します。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺⁶

代 表 六 車 秀 之